〈教 育 報 告〉　　研究課程研究論文要旨

中国における少数民族の死亡力に関する研究

高　　建　群

A study on mortality of minor ethnic groups in China

Jianqun GAO

Current study focused on mortality differentials among minor ethnic groups (MEGs) in China with the indices of SMR, life expectancy at birth and related parameters. The basic statistics were available in the 1990 census report. The results were as follows:

1. The span of life expectancy at birth for 28 MEGs is less prolonged than that of Han and SMRs for 12 MEGs go over 2.0 when standardized with that of Han.

2. The difference of infant mortality between the highest and lowest reached up to 155 per thousand births which corresponded to 15 times of the lowest. For SMR, the greatest difference came to be 2.2. In terms of life expectancy at birth, the greatest difference showed 22.4 years for male and 23.0 years for female respectively.

3. Picking up the MEGs with five years less than Han in terms of life expectancy, the pattern of age-specific mortality was analyzed. The results manifested 11 MEGs including Tibet are predominant with infant mortality and 3 MEGs including Kazafu are predominant with mortality for the age group over 45. The MEGs inhabited in north-east or east costal areas are likely to enjoy longer life span. In the contrary MEGs in south-west, high land area of south-west and peripheral area tended to suffer from shoter life span.

4. It is observed that the socio-economic variables such as population proportion by industry, illiteracy rate are likely to affect the mortality level. In addition the culture, custom, marriage norm and dietery pertaining to each minority group could be related to the mortality level in some cases.

Supervisor: Kenji HAYASHI

I．目　的

中国の全国人口は約12億であり，そのうち約1割の9千200万人は，55の少数民族から構成されている．従来，全国の民族別の死亡力に関する統計資料はなかったため，少数民族の死亡力に関する総合的研究は不可能であった．

本研究では，1990年に実施された第4回人口センサスの資料を用い，少数民族の死亡水準とその格差について検討した．また，民族別の平均寿命と社会経済指標及び少数民族の特有な文化，習慣との関連についても分析を行ない，少数民族の死亡水準及びその格差に影響を与える要因について検討を加えた．

II．資料と方法

1．資料：資料としては第4回人口センサスによる1989年7月1日から1990年6月30日までの全国56の民族及び雲南，四川省に居住する少数民族の年齢別，男女別死亡数，人口数及び出生数を用いた．また，民族別の社会経済統計資料も利用した．

2．方法：民族別，男女別の粗死亡率，乳児死亡率，年齢階級別の死亡率及び生命表を算出し，1990年の漢族人口の年齢構成を標準人口として用いた間接法によ

指導教官：林　謙治（保健統計人口学部）

り，標準化死亡比（SMR）を算出した．次に，年齢階級別死亡率の男女間の格差を検討するため，男性の年齢別死亡率と女性の年齢別死亡率の比を計算した．また，高橋氏による簡略した小林の方法を用い，各少数民族と漢族の平均寿命の差に対する各年齢階級別の死亡確率の寄与年数及び各年齢階級別の寄与年数が平均寿命の差に占める割合（寄与割合）を算出し，寄与割合によって年齢別死亡パターンを乳幼児型，中高年型及び混合型として計3類型に分類し，その地理分布を検討した．さらに，社会経済的な要因及び少数民族の特有な文化，習慣と平均寿命の格差との関連性の分析を行なった．最後，雲南と四川省に居住する同一少数民族の死亡状況から，平均寿命は少数民族の特有な風俗，食生活，婚姻など生活習慣との関連性が強いか，あるいは社会経済的な要因との関連が強いかについて検討した．

III．結　果

1．中国における少数民族の死亡力の概観

1）漢族に比べ，ほとんどの少数民族の死亡水準はなお高い．

(1) 12つ少数民族のSMRが200を超えた．

(2) 人口10万以上の33の少数民族のうち，28の少数民族は平均寿命が漢族より短い．

2）少数民族間の死亡水準の格差は非常に大きい．

(1) 少数民族間の乳児死亡率の最大格差は155.78で約15倍の開きがある．

(2) 民族によっては，同一民族内死亡率の男女格差が大きい．乳幼児期においてアチャン族などの10の民族は男女死亡比が1下まわり，女性の死亡率は男性の2倍である．再生産年齢においては，ワー族などの民族は男女死亡比が顕著に低い．一方，労働年齢人口において男女死亡比が2上まっわたのは14の民族である．また，キルギス族などの3つの少数民族は，男性より女性の平均寿命が短い．

(3) 少数民族間のSMRの最高値と最低値との差は222であった．

(4) 人口10万以上の33の少数民族間の平均寿命の最大格差は男性で22.37年，女性で22.99年であった．

2．少数民族における死亡力の格差に対する人口学的な分析

1）少数民族の年齢別死亡パターンは以下の3つに分けられる．

(1) 乳幼児型に属するのはチベット族などの11つの民族であった．

(2) 中高年型に属するのはカザフ族などの3つの民族であった．

(3) 混合型に属するのはイー族などの2つの民族であった．

2）死亡状況の地理分布

(1) 東北地方，東部沿海部及び平地地区には居住する少数民族は平均寿命が比較的長く，西南部の内陸地区，西北部の高地及び辺境地区には，平均寿命が比較的短い少数民族が多い．

(2) 雲南，貴州，青海，チベット，新疆など西南，西北地区に居住する少数民族は乳幼児型に属するものが多く，これに対して，黒龍江，内蒙古，新疆などの省に居住する少数民族は中高年型に属するものが多い．

(3) 雲南省に居住する漢族とイー族以外の少数民族は，四川省の同じ民族に比べ，SMRが大きい．男女別にみても，同じ傾向はある．また，雲南省に居住しているチベット族とミャオ族では，SMRは男女とも全国各該当民族より大きく，これに対して，四川省に居住する同じの民族はSMRが小さい．イー族では，逆の傾向である．

3．関連要因

1）産業別人口割合，文盲率及び人口規模など社会経済的な要因は少数民族間の死亡水準の格差に影響を与える．

2）各少数民族の特有な文化，風俗，婚姻及び食生活など習慣はある程度関連があると考えられる．

IV．考　察

中国の少数民族と漢族の間に死亡水準の格差が見られた同時に少数民族間の死亡水準に大きな格差も見られ，人口規模が大きな少数民族に比べ，人口数が少ない少数民族の方が死亡水準の民族間の格差が大きいという傾向がみられた．また，死亡水準の男女差もみら

れ，男性より女性の平均寿命の方が短い民族もあった．

また，乳幼児期の死亡率，特に乳児死亡率が高い少数民族は，ほとんど西南部の雲南省に居住している．また，再生産年齢層の女性の超過死亡を目立つ少数民族はほとんど西南部の内陸地区，西北部の高地及び辺境地区に居住しており，カザフ族などの高年齢層の死亡が多い民族は，新彊，内蒙古に居住する遊牧民族である．これはもちろん地域格差という原因があるが，少数民族自身の特有な文化，風俗，習慣も影響していると考えられる．

少数民族と漢族及び少数民族間の死亡水準の格差に影響する要因としては，社会経済的な要因のみならず，他の因子も影響している可能性がある．年齢階級別死亡パターンの違うのはその格差に影響する人口学的な要因の一つであり，少数民族自身の特有な文化，風俗，習慣との関連もある．例えば，近親族間の結婚，早婚，若年出産，伝統な妊娠，出産に対する考え方及び助産，育児方法などの習慣は乳幼児死亡と妊産婦死亡に影響を与えると考えられる．また，遊牧，狩猟民族の死亡は生活不安定，自然条件の厳しい，医療サービスの不整備などと関連があるが，これらの民族特有な生活習慣との関連もあると思われる．例えば，遊牧，狩猟民族は凍死，落馬などの事故死が多く，野菜，果物をあまり食べないので，脂肪を多量に摂取し，水溶性ウィタミン不足，高脂血症及び循環器疾病による死亡が多いことが考えられる．

中国では国土が広く，非常に大きな格差があるので，今後の対策としては，その格差に応じて，異なる対策を取る必要がある．経済の発展，教育の普及，生活及び栄養の改善，保健医療水準の提高など基本的な対策が必要であるが，少数民族の年齢別死亡パターン及び特有な文化，風俗，習慣に応じた対策も重要である．

また，特有な文化，風俗，習慣をいまだ持っている少数民族の高死亡率及び死亡パターンを形成する具体的な原因を解明するためには，今後地区レベルの詳しく調査が必要であり，ことに異なる地域に居住する同一民族の調査及び同じ地域に居住する異なる民族間の比較研究が肝要である．